

学校花壇部門

総 評

学校(園)花壇には、テーマやコンセプトが必要であり、花壇の形や植え方に「考えられたデザイン」があろう。もちろん子どもたちの意見が反映され、決定は子どもたちにゆだねることが大切である。花壇活動を進める上で、困ったことがあれば、地域の専門家(グリーンキーパー等)に相談して知恵を借りることを勧める。

実際の花壇作業(定植、水やり、除草、花がら摘み等)では、ペア学年や縦割り班を形成して全校児童が参加する工夫が見られた。水やりでは「スプリンクラー」を活用する学校(園)も増えてきているが、水が行き届かないところがあるので注意してほしい。

特色ある事例として、プラグ苗の定植を取り入れた花壇づくりや、1年生生活科、3年生理科にも花壇が活用されている。また、秋の“花壇じまい”を学校行事に位置づけているところもある。学びや交流の場になっていることは、他の学校(園)も今後、参考となるものである。

花壇活動の説明(プレゼンテーション)を子どもたちが行った学校が2校あった。子どもたちは自分自身の言葉で説明し、受け答えしてくれた。花壇活動の主役は、子どもたちであろう。しかし、長期間に渡る花壇活動では、子どもたちを支え、指導される花壇担当者を中心とした教職員の献身的な姿があり、頭が下がる思いである。今後も担当者の頑張りに期待すると共に管理職をはじめ学校(園)挙げての協力体制の強化に努めてほしい。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した「黒部市立石田小学校」の花壇は、色具合、高低の変化、咲き誇る花々の生育のよさが群を抜いていた。今年の花壇テーマは、「元気で楽しい石田っ子」。具体的には元気よく頑張る運動会をイメージしたものである。特に、紅白の玉入れや綱引きの綱がうまく表現されていた。太陽に向かい大輪のひまわりを中央に位置づけたことも効果的であった。色違いのマリーゴールドが植えられていた花壇も、中央部のクリーム色のマリーゴールドの背が高く、ほどよいボリューム感を醸し出していた。学年の花壇前にはネームプレートが設置され、花の名前を覚える配慮があった。防草効果をねらい「粃殻」を取り入れ、敷き詰めたこともよかった。

(審査委員長 前田孝夫)